

# 更生保護 たかしま

第33号

2022.3.1発行

高島保護区保護司会

〒520-1121高島市勝野215番地

(高島市役所高島支所1階西側)

高島更生保護サポートセンター内

TEL.0740-33-7333 FAX.0740-33-7332

協力 高島市社会福祉課

のどかな琵琶湖の風景です。竹生島と伊吹山が一直線に並んで、厳かな神秘的なものを感ぜさせますが、それもそのはず、このラインは北緯35度22分で、富士山と大山・出雲大社をほぼ結ぶ線上にあります。春分、秋分の日にはこのライン上に日が昇ります。



高島保護区保護司会の皆様におかれましては、平素から保護観察や再犯防止など地域の安全・安心のための活動に御尽力いただき、心より感謝申し上げます。また、高島市において保護司をはじめとした更生保護ボランティアの活動に御理解・御協力していただいている皆様に対しまして、厚く御礼を申し上げます。

テレビや新聞では連日のように全国各地で起こった様々な犯罪についての報道がなされていますが、起こった犯罪の全てが報道されているわけではありません。また、報道される場合でも多くは容疑者が逮捕された時点までにとどまり、その後の経過や裁判結果まで伝えられるものはごくわずかです。

ましてや罪を犯した人が刑務所でどのように生活しているか、どのような人々が再犯・再非行を防ぐために取り組んでいるかなどについて知ることができる機会はほとんどないでしょう。しかし、高島市でも犯罪は無くなる

**犯罪や非行を  
防止するために**

大津保護観察所長 **藤田 博**

ことはなく、また、罪を犯した人の中には高島市に戻って生活している人もいます。

犯罪や非行を防止し、犯罪の被害に苦しむ人をなくすためには、取締りの強化や罪を犯した人の処罰も必要ですが、それだけでは十分ではありません。罪を犯したけれど反省して立ち直ろうとしている人のことを理解し、彼ら・彼女らに再び犯罪をさせないよう手を差し伸べることも必要です。

そのためには、誰かが悩んでいるのを見かけたら話を聴く、困った人がいれば手を差し伸べる、罪を反省し立ち直ろうとしている人を支援する人々や団体に協力するなど、専門の知識や経験がなくてもできることがあると知っていたらどうでしょうか、自分の大切な方々を犯罪や非行から守るためにできることは何かについて周りの方々と話し合っていたらだければと思います。

今後とも御理解・御協力を賜りますようお願い申し上げます。

# 失敗や過ちの後が、人間をきめる!

高島保護区保護司会会長 大塚 泰雄

私はこれまで保護司としてかわつてきた対象者に、いつも次のような話をします。「あなたは確かに法律を破った、がその罪を今償っている。仏さまの目や心からみれば、悪事を行いながら見つからずに処罰されず、自分が犯した悪事に無自覚な者の方が罪は深いし重い。そのよな人より、あなたは数段仏に近づいている。人生で一度も失敗しない人はいないし、過ちは誰にでもある。失敗や過ちの後が人間をきめるのです。その自覚と反省の心と共に、立ち直る努力をすることが大切です。勇気をもって堂々と再出発をする今のあなたを、仏さまは常に見ていてくださいますから。」と。

法律は不完全な人間が構成する社会が作っているものであり万能ではありません。今の日本の元総理や法務大臣等、法を作り執行する責任者自身が数々の事件や差別発言、失言を繰り返して惹起しておきながら、その職務権限の大きさや責任に対して何の恥じらいの心も反省もなく、謝罪の言葉も示さない現状を見る時、益々その不完全さと危険性を感じてしまいます。

が、しかし、いうまでもなく、それ



春爛漫の酒波寺

でも法律は守らなくてはなりません。「悪法でも法は法」ともいわれます。法は人間社会の平和秩序を保つための重要なツールのひとつでもあります。

僧侶であり、保護司でもある私は「失敗や過ちの後が人間を決める」という言葉を常に念頭におき、不幸にして法を犯し、罰せられた人の更生と社会復帰のお手伝いをさせて頂いて二十年近くになります。

単に法を破ったからという見方からの罪ではなく、人としてやっつけられないこと、言ってはならないことをしてしまった(煩惱具足の凡夫の、やむにやまれず犯した)罪なのだ、という仏さまの心と目で接しつつ、親鸞聖人の教えに基づいて今後保護司の任にあたらせていただくと思っております。

(浄土真宗本願寺派通安寺前住職)

# 「保護司退任にあたって」 上田 藤市郎

退職した年の12月に保護司を委嘱される機会をいただきました。高島保護司会の歴代会長をはじめ、会員の皆様との交流を通じて、その多彩な人生経験から保護司の職務にかかわることはもとより、それ以外にも貴重なご指導をいただいたことを深く感謝申し上げます。他方、私宅を訪ねてくださる様々な方との面接を通じて、その語りの中で厳しい体験を聞き、自分の狭い職務経験を超越した、悩みや現実を教わることでできたのも本当にありがたいことです。

2009年5月末には、図らずも法務省保護局および国連アジア極東犯罪防止研修所主催の保護司国際研修に参加させていただきました、オーストラリア、ジャマイカ、米国など海外の法務、警察、保護司の方々から社会復帰の先進的な取り組みを聞いたことは忘れ難い経験です。他の国では保護司の職務は、「検認」、つまり自立して再出発できる人として認定をする専門的な人という意識があるように感じました。

数か月や数年の面接で、人に感化を与えることなどできたとは思えません。相手の立場に立つて



代田に生えるメタセコイヤ並木

物事を考えるとき、課題は大きく、長年の仕事で付着した確信が徒となり、教導者としての驕りや説教につながったりすることもありました。

面接は相互の言葉の交流を基盤としています。近年、政治家や著名人の言葉の軽さや不誠実がマスコミを通じて話題になりました。言葉は、心が表されたものですか、誠意が伝わらないと面接の効果は期待できません。その人の関心に合わせて共通の話題を材料に話し合いました。再出発に必要なのは、生きる意欲であり、金銭への欲望、それを得るための就職です。最近、協力雇用主の理解が深まってきたのはとても力強いことで、保護司活動の明るい未来が期待されます。

# 十人十色

## 過去を振りむかず

中江 彰

これまでに私は、年齢もまちまちな六名の方の保護観察を担当させて頂いたわけですが、いずれの対象者との面接において、その方のタイミングを見計らいながら、かならずおなじ「昔話」をひとつだけ聞かせることにしています。

それは、かの有名な一休和尚にまつわる逸話で、史実かどうかは知りませんが、次のような内容です。

「一休和尚がある日、ウナギ屋の前をとおりがかったとき、「あなんとうまそうな匂いじゃー!」と思わずつぶやきました。しばらくしてから、お供の小僧さんがうしろから声をかけて、「和尚さま。和尚さまは、さきほどウナギ屋の前で、うまそうな匂いじゃとおっしゃいましたが、和尚さまとあう人が、あんなことを申されてもいいのでしょうか?」と言いました。すると一休和尚は、「馬鹿もん。お前はまた《かば焼き》をぶら

下げて歩いていっているのか。わしは、とおにウナギ屋の前で捨ててきたわい」と言われたそうでありました。まことにたわいのない昔話のなかに、現在の私たちにとって、大切なことがらを見出すことができそうです。だれしも過去のたどつてきた人生というのは、成功・失敗いろいろですが、がいて後悔の念にさいなまれることの方が多いいのです、そうすると、過去のいやな思い出ばかりが《わが心》を占領してしまい、ほんらい一人ひとりに備わった太陽のとき《慈愛・恭敬の心》に、黒い雲が覆いつくし、いつのまにかねじけた心となってしまうのです。

それで、私はいつもこう言うのです。「昨日までのことは、すべてドブ川に捨ててしまえ。いつまでも引きずっていたらダメ。いま自分に与えられた仕事を、精一杯やっけてゆけば、心配せんでもかならず周りの人が評価してくれるよ」と。かれらに《反省》ということばを多用すると、かえって心を委縮させてしまい、ちいさな夢や希望までも消し去ってしまうことになりはしないかと恐れるばかりです。

## 私の保護司活動

河毛 悦男

私は、高島の小社の宮司を務める田舎神主です。このコロナ禍の中で、社会活動に大きな変化が表れたのと同様、神社界においても然り、氏子が心をひとつに盛大に行われていた年に一度の大祭も、規模の縮小や行事の中止を余儀なくされ、今まで当り前だった日常が消え失せました。一日も早く元の日常が戻るように日々神様に祈りを深くしている毎日です。

さて、私が保護司を拝命して日は僅かしか経ちませんが、先輩諸兄より様々なお話をお聞きしながら日々の対応、寄り添い方など自分なりに考えてきました。しかし、到底結論に至らない状況の日々でした。

するとある時、参拝者に「神社は心の安らぎですね。宮司さんはいつも神様とご一緒でいいですね。」と声を掛けられ、私自身毎日神前で御奉仕していますが、反して外から神社を見ることに気がつきました。と同時に、この神社という空間、深い森や環境を生かし、誰もが心穏やかに成れるのはこころしいと思えました。



静かな湖畔

以来、太古より連綿と受け継がれてきた神社の精神を以って、面談は社務所で、立ち話は必ず境内の風景を見ながらお話しするようにしています。自然と心が打ち解けあうのも神社という空間の持つ最大のメリットではないかと思えます。

人はそれぞれ生まれも育つ環境も性格も異なりますが、一番落ち着ける場所がそこであるならば、この空間を最大限に活用し、今後も微力ながらお手助けができればと思っております。

**優秀賞**  
心に響く  
人との関わり  
安曇小学校 六年  
あおき 咲らゝさん  
青木 咲らゝさん

「犯罪」とは法律に背く行い、「非行」とは社会のルールに背く、してはならない行いのことだ。これまで、私はそれを見聞きする度に、どうして法律やルールに背いてまで悪いことをする人がいるのか理解できず、その人達に対して腹立たしく思っていた。そして厳しい罰を受けて反省すれば良いのと思うだけで、それ以上深く考えることはなかった。でも、私はこれからだんだん大人に近付き、社会をつくる中心になっていく。そう考えると、「犯罪」や「非行」のない地域社会をつくるためにはどうしたら良いのか「じっくり考えなければならぬ」と思うようになった。

「犯罪」や「非行」が無くなるように、そして誰もが安心して暮らせるように、私は更にたくさんの人と関わり理解を深めようと思う。また、他人の良い所にもっと目を向けようと思う。そして、平和で明るい地域社会づくりを目指したい。

ルールを破ってまでも自分の目的を果たすとか快感で満足するかもしれないが、私自身は普段からルールを守って生活するように心がけている。なぜなら、他人を悲しませたり苦しめてしまっただけでなく、後から自分にとっても困ったことが起きると思うからだ。私はそのことを周りの大人達から体験談を混ぜながら教えてもらってきた。なぜこんなルールが必要なのかと疑問に思った時は、そのルールができた過程を分かりやすく教えてもらった。反対に、丁寧に私の考えを聞いてルールを見直してもらった時もある。非行をしてしまう人達には、私のように色々な体験談を聞いたり、大人とじっくり話をする機会があまりなかったのではないかと思う。また、非行をするようになってからは、みんな近付きにくくなって人と話し合う機会がますます減るだろう。

ルールを破ってまでも自分の目的を果たすとか快感で満足するかもしれないが、私自身は普段からルールを守って生活するように心がけている。なぜなら、他人を悲しませたり苦しめてしまっただけでなく、後から自分にとっても困ったことが起きると思うからだ。私はそのことを周りの大人達から体験談を混ぜながら教えてもらってきた。なぜこんなルールが必要なのかと疑問に思った時は、そのルールができた過程を分かりやすく教えてもらった。反対に、丁寧に私の考えを聞いてルールを見直してもらった時もある。非行をしてしまう人達には、私のように色々な体験談を聞いたり、大人とじっくり話をする機会があまりなかったのではないかと思う。また、非行をするようになってからは、みんな近付きにくくなって人と話し合う機会がますます減るだろう。

**佳作**  
再犯が  
起こらない未来へ  
安曇川中学校 三年  
すずき ともかさん  
鈴木 友香さん

「日本は治安がよいの？悪いの？」そう聞かれたら大抵の人は「いい方だと思っ」と答えるでしょう。世界では今も紛争でたくさん人の命が奪われている国や、食べ物も家もない苦しい生活を送っている人がいる国があります。それに比べれば日本はともて平和な国です。だから私はこの解答は間違っていないと思います。ですが私は最近ニュースで見たある事実が衝撃を受けました。それは日本の再犯率がおよそ50パーセント。つまり二人に一人の出所者がまた犯罪を犯してしまうという事実です。確かに日本は平和な国ですが、再犯率がこんなにも高いことを知り、私はとても不安になりました。

「日本は治安がよいの？悪いの？」そう聞かれたら大抵の人は「いい方だと思っ」と答えるでしょう。世界では今も紛争でたくさん人の命が奪われている国や、食べ物も家もない苦しい生活を送っている人がいる国があります。それに比べれば日本はともて平和な国です。だから私はこの解答は間違っていないと思います。ですが私は最近ニュースで見たある事実が衝撃を受けました。それは日本の再犯率がおよそ50パーセント。つまり二人に一人の出所者がまた犯罪を犯してしまうという事実です。確かに日本は平和な国ですが、再犯率がこんなにも高いことを知り、私はとても不安になりました。

一度でも罪を犯した人には「犯罪者」というレッテルが一生はがれないままついてくるのが今の世の中です。そのレッテルをはがしてあげて、その人が「犯罪者」ではなく「普通の人間」として生きていけるようなサポートをしていくことができる社会になれば、再犯は減り、もっと明るい社会になるのではないのでしょうか。

一度でも罪を犯した人には「犯罪者」というレッテルが一生はがれないままついてくるのが今の世の中です。そのレッテルをはがしてあげて、その人が「犯罪者」ではなく「普通の人間」として生きていけるようなサポートをしていくことができる社会になれば、再犯は減り、もっと明るい社会になるのではないのでしょうか。



虹のメタセコイア並木

「再犯が起らない未来へ」という未来になるように、まず私たち一人一人が、人とのコミュニケーションを大事にして、相手の立場に立って気持ちを考え、外側の部分だけではなく、内側の部分まで見ることが大切だと思います。

令和3年度 第71回「社会を明るくする運動」(法務省主催作文コンテスト) 高島地区推進委員会推薦作文一覧

小学生部	●安曇小学校	6年	あおき 咲らゝさん	「心に響く人との関わり」
	●高島小学校	6年	すずき ともかさん	「障害者が安心して暮らせる社会へ」
	●今津東小学校	6年	鈴木 友香さん	「社会を明るくするために私ができること」
中学生部	●安曇川中学校	3年	鈴木 友香さん	「再犯が起らない未来へ」
	●高島中学校	2年	佐藤 帆香さん	「思いやりの大切さ」
	●湖西中学校	1年	高畑 結衣さん	「一人一人が意識しよう、あいさつ」

応募数 小学校：9校 (176人) 中学校：5校 (165人)

おめでとうございます

今年度は小学校9校、176人、中学校5校、165人の皆さんから「社会を明るくする作文コンテスト」に応募いただきました。作文はそれぞれ、社会を明るくするために考えたこと、気がついたこと、そして自分にできることなどを真剣につづられています。そのなかで2人の方が滋賀県委員会の審査で受賞されました。若い皆さんの前向きな姿勢に、感銘し、気づかされます。ありがとうございました。

**優秀賞** あおき 咲らゝさん 「心に響く人との関わり」

**佳作** すずき ともかさん 鈴木 友香さん 「再犯が起らない未来へ」

# 「社会を明るくする運動」にご協力を



コロナの災いが2年以上続いて、暗い話題は尽きません。感染防止のため人間どうしのふれあいや対話が制限され、何とかネットでつながっている状態です。こんな中で「人とのつながり」ということについて考えさせられます。今回4ページで紹介した青木さんの文章は、人の関わりの大切さについて深く考えています。

思えば昭和の末頃から人との交わりが希薄になってきたのではないのでしょうか。今や一言もしゃべらずに買い物ができる。何も言わずに電車にも乗れます。人との対話をわずらわしいとさえ感じる人もおられるようで、便利な時代ですが、失ったものも大きいのではないのでしょうか。

そこへコロナ禍や震災などの災害で、改めて人とのつながりや絆の大切さが強く問われているのですが、簡単に取り戻せそうにもありません。助けたり助けられたりが当り前の人間社会が、今こそ求められます。

また社会を明るくするために、安心、安全な地域づくりも欠かせません。5ページで紹介

した鈴木さんの作文は、犯罪を犯した人が再び罪を犯す再犯率が50%あることに不安を訴えています。背景には孤立し貧困や就労に悩み再犯してしまう出所者の姿があります。本人は強い意志で立ち直ろうとしても、思うようにいかない現実があります。コロナ禍で仕事が見つけない状況は厳しいものがあります。この解決には社会全体の取り組みや、地域の人たちの協力が欠かせません。

一人で悩んで抱え込まないことが大切です。生きづらい世の中ですが、相談できる窓口や支えてくれる人がいます。

## 困ったときの相談窓口

**社 協 つながり応援センターよろず**

電話：0740-25-5750 FAX：0740-25-5177

**市役所 暮らし連携支援室**

電話：0740-25-8120 FAX：0740-25-8054

困りごとをお聴きし、一緒に解決に向け考えます。悩んで抱え込まずに、お電話ください。

## 令和3年度

### 更生保護事業関係被表彰者

(10月21日)

#### 保 護 司

- 再犯防止民間協力者滋賀県知事感謝状 上田藤市郎
- 同上 大塚 泰雄
- 近畿地方更生保護委員会委員長表彰 伊藤 隆樹
- 同上 山下晏叶子
- 近畿地方保護司連盟会長表彰 西川 利政
- 大津保護観察所長表彰 小坂 一郎
- 同上 拜藤 正彦
- 同上 廣本さとみ
- 滋賀県保護司会連合会長表彰 河毛 悦男
- 同上 河野 貫由
- 同上 平楽 康男

#### 更生保護女性会員

- 再犯防止民間協力者滋賀県知事感謝状 大森ユリ子
- 近畿地方更生保護委員会委員長感謝状 前田 啓子
- 近畿更生保護女性連盟会長表彰 野崎 季乃
- 大津保護観察所長感謝状 赤崎 民江
- 同上 足立 菊江

## 保護司の活動とは

保護司は犯罪や非行をした人の立ち直りを、住み慣れた地域社会の中で、面接などを通じて指導や援助をしたり、見守ったりしています。また、安心・安全な社会をつくるための啓発活動にも携わっているボランティアです。

このような活動には、保護司だけでは十分なことはできません。地域の見守りと協力があればこそ可能です。高島市内には25人の保護司が活動しており、高島支所内の「高島更生保護サポートセンター」を、毎週火、水、木に開所しています。ぜひ一度お越しください。

### ◆令和3年度 保護司異動

退任 上田藤市郎 (11月30日)

新任 上野 信子 (12月1日)



早春の花 ザゼンソウ

## 編集後記

コロナとうまく付き合っていくことが求められるようになりました。そのためにはワクチンや治療薬の充実が待たれます。それにしても次々に変異するウイルスとのいたちごっこは、いつまで続くのでしょうか。マスクが取れて普通のお付き合いができる日を待ち焦がれます。